

魅力的な動物園を提案するための

マネジメントに関する調査研究

～のいち動物公園への提案～

1120406 宮本 惟生

高知工科大学マネジメント学部

1 概要

近年、レジャー施設の多様化により、人々の娯楽への選択肢が増えたことや、社会問題となっている少子高齢化の煽りを受け、経営に苦戦し、存続が危ぶまれる動物園は少なくない。このような状況の中、さまざまな取り組みを行ない、廃園危機から脱し、全国的な高評価を得るまでに改善された動物園も存在する。こどもからお年寄りまで幅広く動物園の存在意義をアピールし、地域になくってはならない存在になるためには、どのような要因が重要なのだろうか。また、今後はどのような方向性で存続発展を考えなければならないだろうか。本稿では、筆者の宮本が生まれ育った高知県香南市野市町に位置する「高知県立のいち動物公園」を取り上げ、動物園の再生と地域への波及効果が大きい成功事例として有名な「旭山動物園」と比較検討しながら、より魅力的な動物園とはどのような要因が必要かを分析検討したい。

2 背景

筆者の宮本が大学3年次に、高知市のコンサルタントから提案された「のいち動物公園イベント企画運営提案プロジェクト」を通じて、これまで身近でありながらその在り方や本質を問い直したことのなかったのいち動物公園を、改めて調査検証したいと考えた。また、どのような経緯で設立され、どのような発展を遂げてきたか、また地域

との関わりがどのようになっているかを詳細に調査したいと考えた。

3、目的

本稿では、先駆的な取り組みと顧客獲得において全国的な高評価を得ている「のいち動物公園」と「旭山動物園」2事例を調査しながら、魅力的な動物園になるための要因を抽出する。魅力的な動物園を提供するためのマネジメントを筆者なりに考え、のいち動物公園に提案を行うことが本稿の目的である。

4 研究方法

本稿では、既存文献や公表資料、各種データから文献調査を行い、のいち動物公園と旭山動物園の特徴を列挙しながら比較検討を行う。また、のいち動物公園総務企画課チーフの仲田忠信氏に直接的に聞き取り調査を行う。最後にこれらをもとに、2事例が高評価を得るまでの成長プロセスと要因について様々な角度から分析検討を行いながら考察を行いたい。

5 結果

従前は、動物たちの姿形を見せる「形態展示」や檻の中を動物たちの故郷のようにデコレーションして見せる「生態展示」が主流であった。しかし、本稿で事例として取り上げる全国的に評価の

高いのいち動物公園と旭山動物園では、動物の生態がよくわかる「バイオーム展示」や「行動展示」を導入し、これを基軸にして、動物園改善のために様々な先進的取組みを行なっている。

旭山動物園は、いち早く「行動展示」に取り組み、全国の注目を集めた。2004年には、夏期月間入園者数が初めて上野動物園を抜き日本一になった。2007年には年間入園者数が300万人を超え、マスコミからは「日本一の動物園」とされ、全国的に有名な動物園となった。しかしながら、旭山動物園の高評価は、単に「行動展示」を導入したからだけではない。スタッフ全員の動物本来の姿や魅力を知ってもらいたいという熱い思いや、改善への意見を汲み上げられる環境を創り、「ワンポイントガイド」や「夜の動物園」「手書きポップ作成」など、具体的かつ多様なアクションプランを確実に実行し、魅力的な動物園の形成に尽力した結果であった。魅力的な動物園の形成要因は、施設などのハード面の整備のみではなく、リーダーを中心としたスタッフ全員の思いを改善に生かすソフト的な環境整備が重要であり、ボトムアップによる経営体制づくりにあったといえる。

一方、のいち動物公園には、家族客が楽しく昼食をとれ、ボール遊びなどができる「ピクニック広場」が存在する。動物を観察することだけでなく、自然も楽しむ環境が整備されている。こうした環境の提供は、全国的に評価の高い動物園に必ずしもある機能ではない。

6 考察

のいち動物公園と旭山動物園は、特に「生態のよく見える動物園」として全国的な評価を得ている。しかし、筆者の分析では、①人材育成への取り組み、②マスコミへの対応や広報、③地域性を活かす、という面でやや旭山動物園に優位性があり、のいち動物公園は、自然と動物園の機能の一

体化において優位性をもつと考えられる。

7 提案

分析検討の結果、のいち動物公園をより魅力的にするために、以下を提案したい。①空間の有効利用の提案、②顧客満足を高めながらファンを大切にする（具体的には、アップツーデートの動物の状況の詳細な情報提供、フェイスペインティング、高知の気候を活かした四季折々のイベントの開催等）、③動物園公園全体をより「温かみを感じる」「遊びゴコロ」のある空間に発展させる（例えば、隠れミッキーならぬ隠れキャラクターを設定する、園内のトンネルへのペインティング、地域資源を利用し動物をあしらった設備の導入等）、④地域に根差した動物園を展開させる。

<参考文献・資料>

- [1]財高知県のいち動物公園協会編著『高知県立のいち動物公園 20年のあゆみ』2011年。
- [2]小菅正夫、岩野俊郎著/島泰三編『戦う動物園』中央公論新社、2006年。
- [3]フジテレビ製作番組「奇跡の動物園～旭山動物園～」2006年5月13日放送
- [4]小菅正夫/野田稔『NHKテレビテクニスト仕事学のすすめ』2011年5月。
- [5]のいち動物公園ホームページ
(<http://www.noichizoo.or.jp/>)
- [6]旭山動物園ホームページ
(http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahi-yamazoo/zoo/sc02_top.html)

<付記>

本研究に関して、現地における調査をはじめご講義やインタビューなどにご協力いただきました高知県立のいち動物公園総務企画課チーフの仲田忠信様に感謝申し上げます。ここに記して感謝の意を表します。